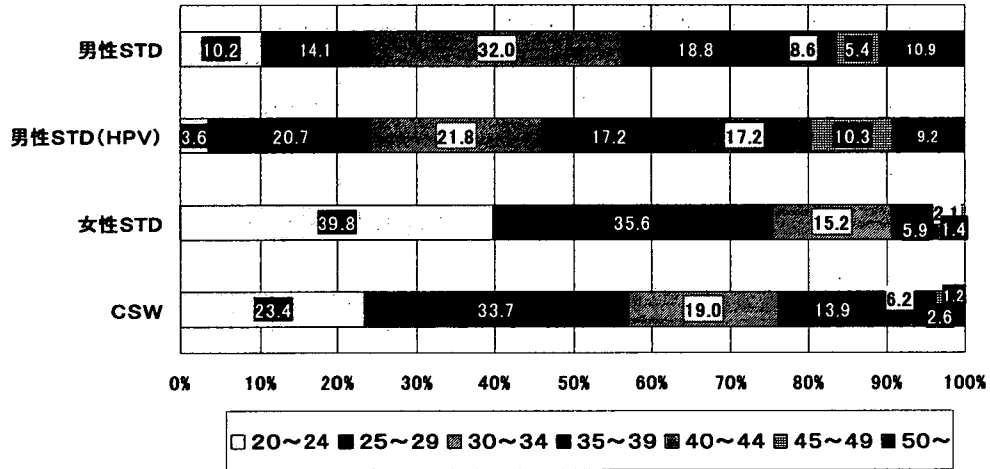
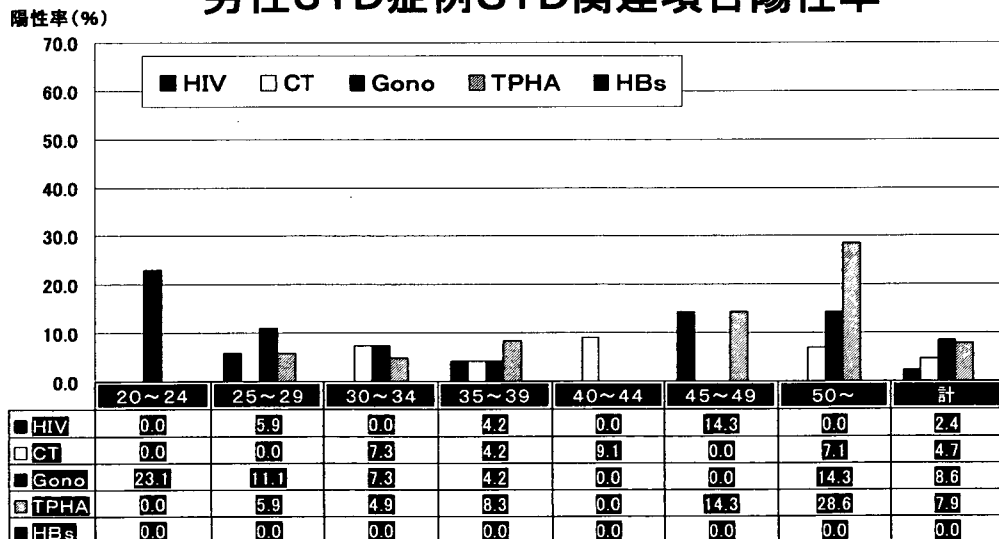


集積症例別年齢分布

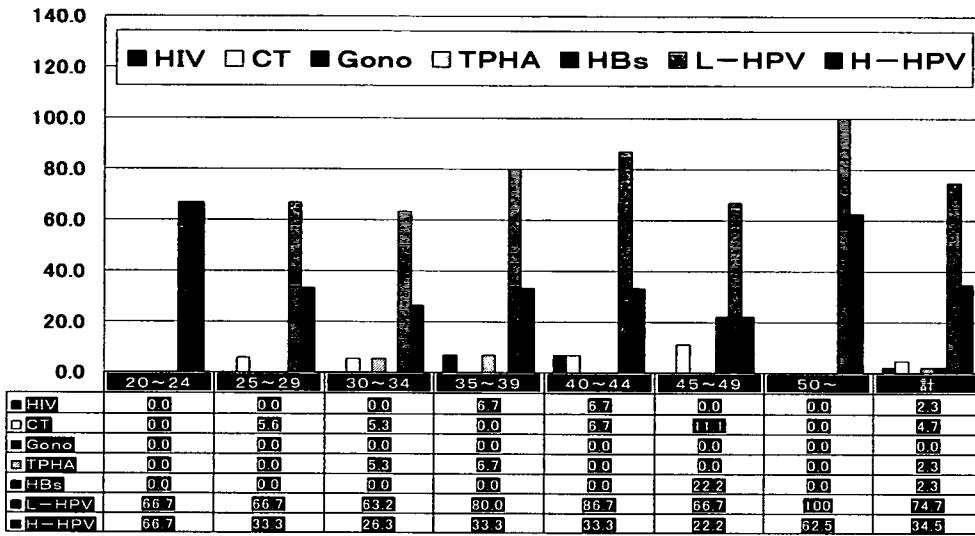


男性STD症例STD関連項目陽性率



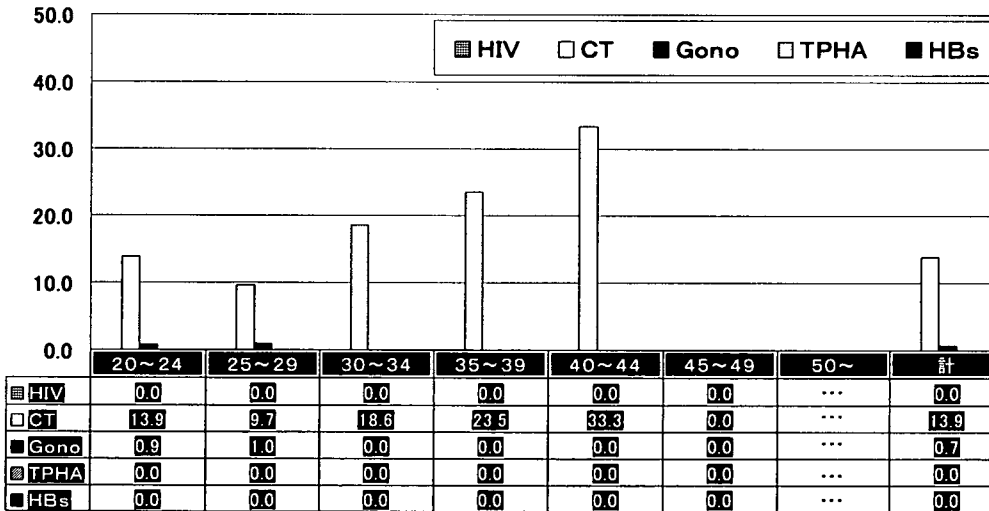
男性尖圭コンジローマSTD関連項目陽性率

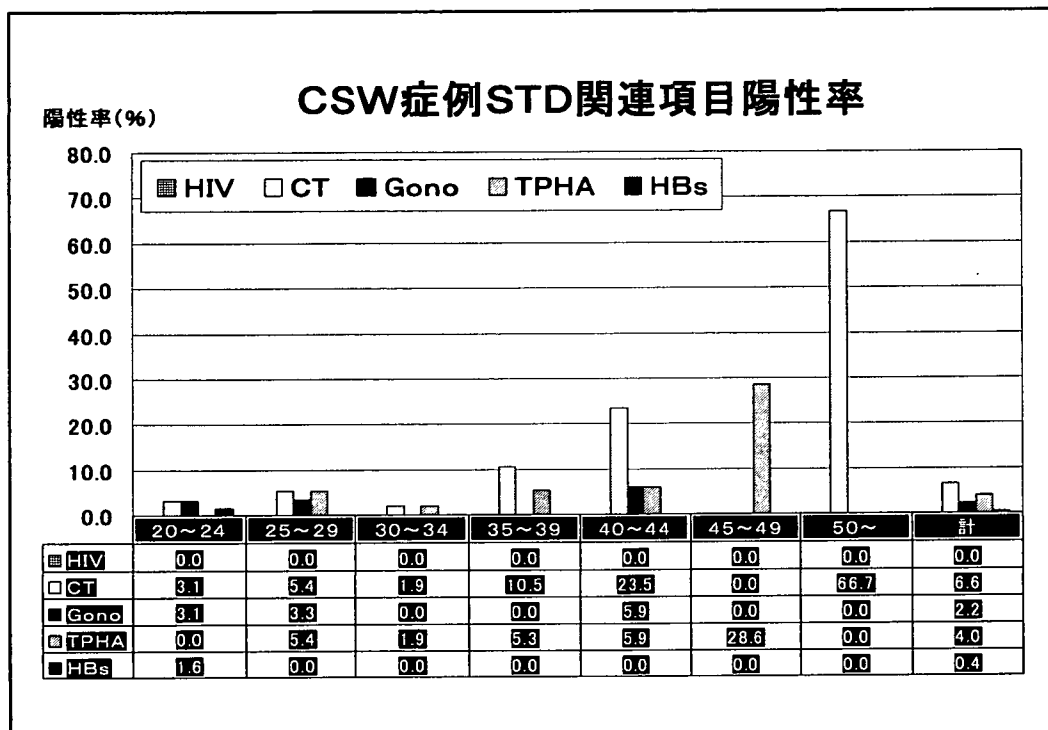
陽性率(%)




女性STD症例STD関連項目陽性率

陽性率(%)






アンケート結果



男性

205名



女性

180名

男性患者さんへのアンケート

登録番号 _____

研究にご協力いただきありがとうございます。
研究をより正確なものにするため、以下の質問にお答えいただきたいと思いますが、答えない質問には答えなくても結構です。

問1. 次の項目の該当する選択肢を○で囲んでください。

- あなたの年齢は(数字を記入) _____ 歳
- あなたは結婚していますか 1. はい 2. いいえ

問2. あなたは今回の受診以前に、医療機関で性感染症(クラミジア、淋病などの性病)と診断されたことがありますか。(どちらかに○印、下線部に数字を記入)

1. はい はいと答えた方
2. いいえ そのときの病名は何と言われましたか。
[]

問3. 今回の医療機関を受診した理由は何ですか。(どれかに○印)

1. 症状がある 一どのような症状ですか []
2. 症状はないが心配
3. その他 []

右上(問4)へ続く



問4. 過去3ヶ月間のセックスのときコンドームは使いましたか。(どれかに○印)

1. 一度も使用しなかった
2. 使用しないほうが多かった
3. 使用したりしなかったり約半々だった
4. 使用するほうが多かった
5. 毎回使用した
6. 過去3ヶ月間セックスしていない

問5. 本日、次の検査を希望しますか。(いくつでも○印をしてください)

1. HIV 2. クラミジア 3. 淋病 4. 梅毒 5. HBs(肝炎)
6. 尖圭コンジローマ

問6. あなたは今までに HIV 検査を受けたことがありますか。受けたことがある方は、該当する回数にも○印をしてください。

1. はい … (検査回数は、1回・2回・3回以上)
2. いいえ

問7. あなたは自分が HIV(エイズウイルス)に感染する可能性はどの程度だと思えますか。(どれかに○印)

1. まったくない
2. 低いと思う
3. 中くらいと思う
4. 高いと思う

以上です。ご協力ありがとうございました。

女性患者さんへのアンケート

登録番号 _____

研究にご協力いただきありがとうございます。
研究をより正確なものにするため、以下の質問にお答えいただきたいと思いますが、答えない質問には答えなくても結構です。

問1. 次の項目の該当する選択肢を○で囲んでください。

- あなたの年齢は(数字を記入) _____ 歳
- あなたは結婚していますか 1. はい 2. いいえ
- あなたは妊娠されていますか 1. はい 2. いいえ

問2. あなたは今回の受診以前に、医療機関で性感染症(クラミジア、淋病などの性病)と診断されたことがありますか。(どちらかに○印、下線部に数字を記入)

1. はい はいと答えた方
2. いいえ そのときの病名は何と言われましたか。
[]

問3. 今回の医療機関を受診した理由は何ですか。(どれかに○印)

1. 症状がある 一どのような症状ですか []
2. 症状はないが心配
3. その他 []

右上(問4)へ続く



問4. 過去3ヶ月間のセックスのときコンドームは使いましたか。(どれかに○印)

1. 一度も使用しなかった
2. 使用しないほうが多かった
3. 使用したりしなかったり約半々だった
4. 使用するほうが多かった
5. 毎回使用した
6. 過去3ヶ月間セックスしていない

問5. 本日、次の検査を希望しますか。(いくつでも○印をしてください)

1. HIV 2. クラミジア 3. 淋病 4. 梅毒 5. HBs(肝炎)

問6. あなたは今までに HIV 検査を受けたことがありますか。受けたことがある方は、該当する回数にも○印をしてください。

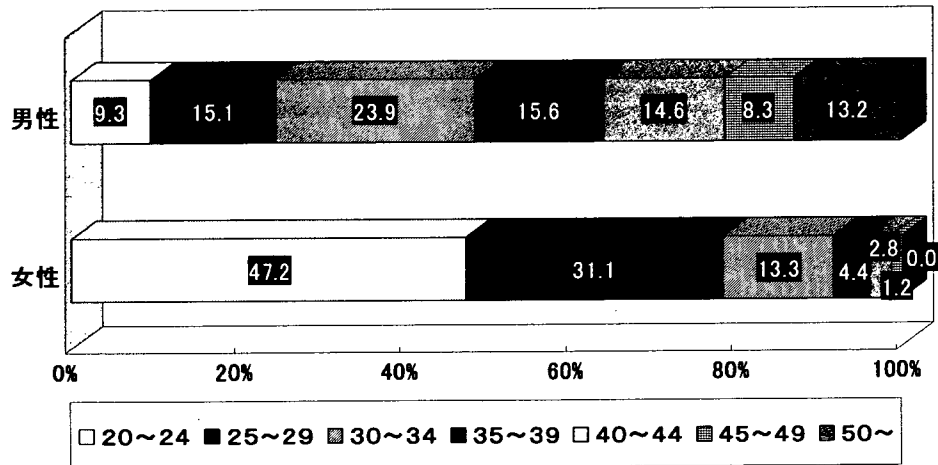
1. はい … (検査回数は、1回・2回・3回以上)
2. いいえ

問7. あなたは自分が HIV(エイズウイルス)に感染する可能性はどの程度だと思えますか。(どれかに○印)

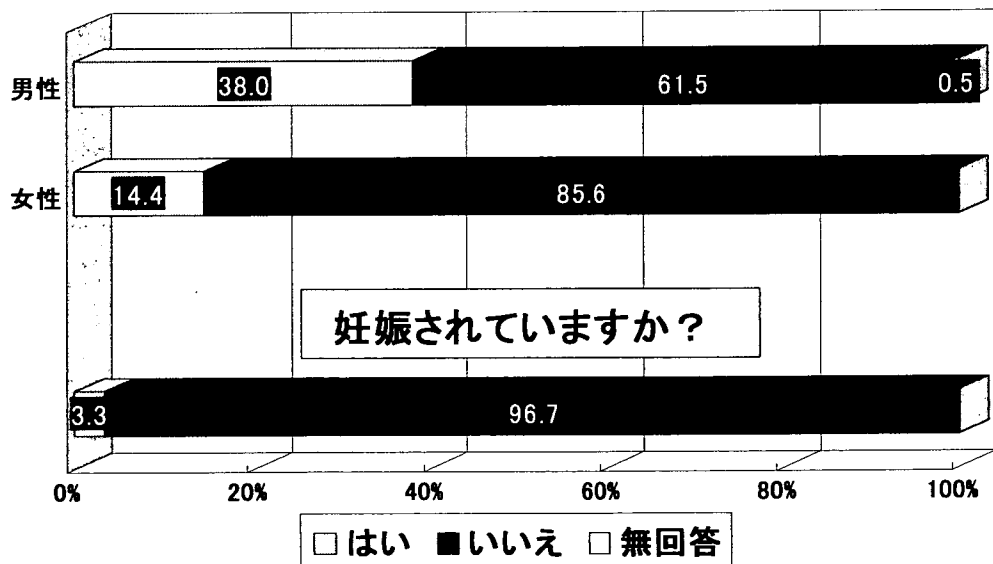
1. まったくない
2. 低いと思う
3. 中くらいと思う
4. 高いと思う

以上です。ご協力ありがとうございました。

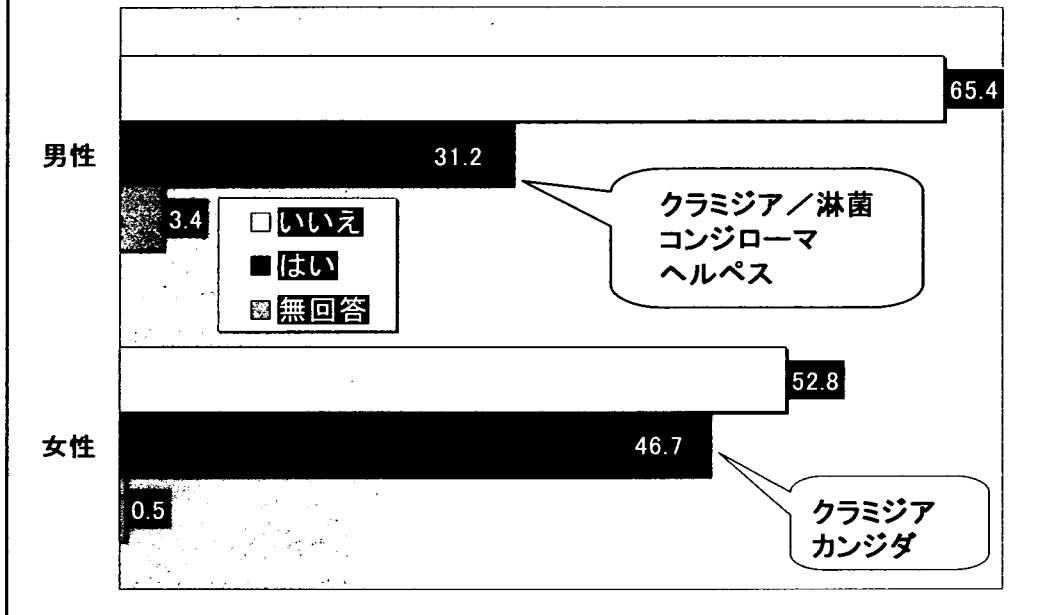
男女年齢分布



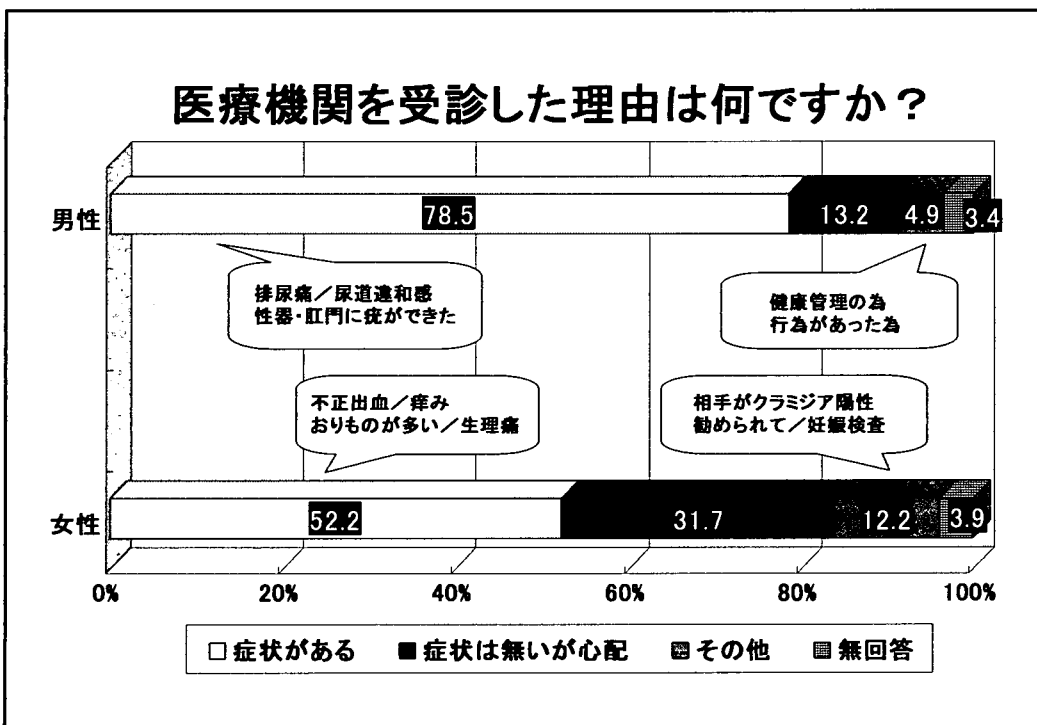
結婚されていますか？

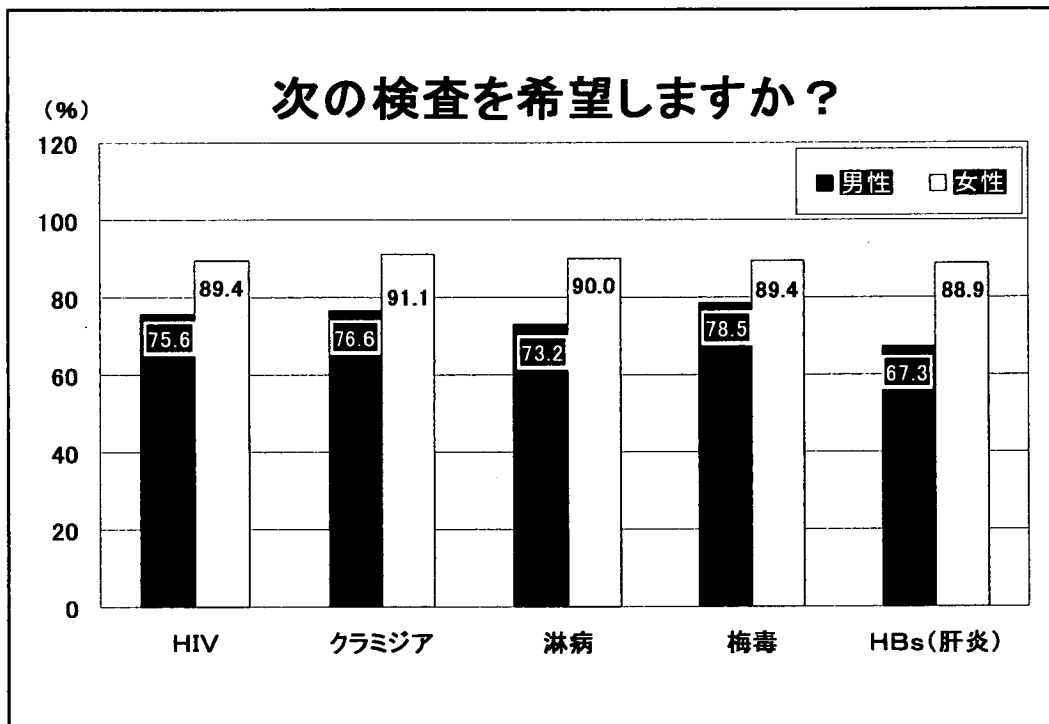
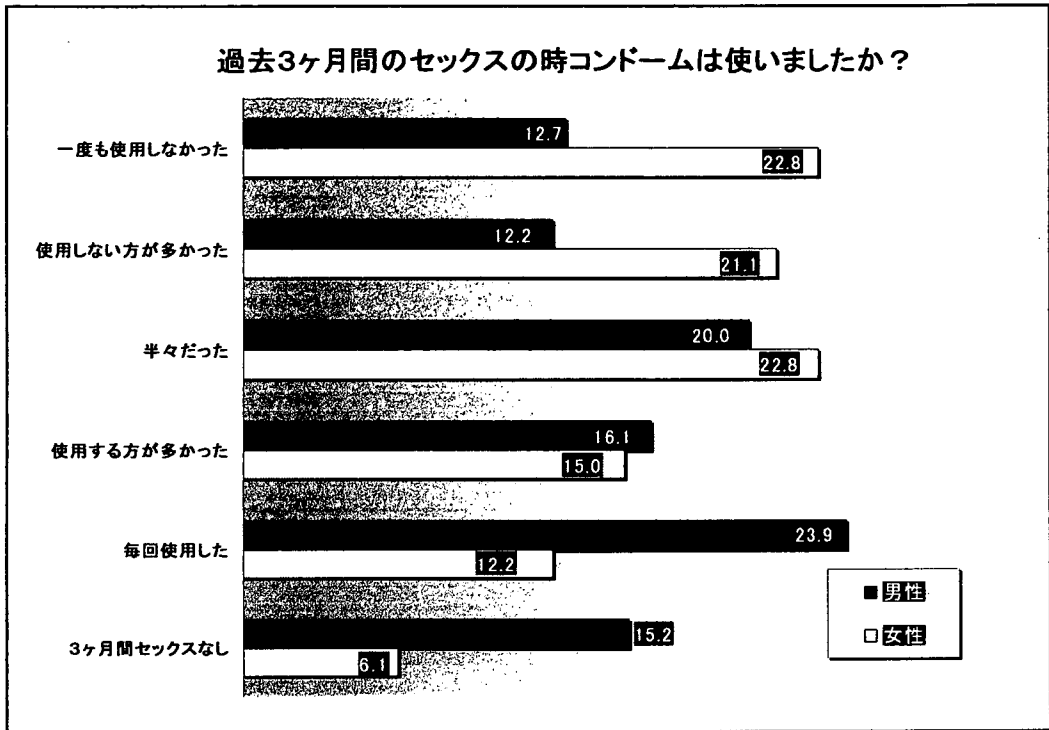


医療機関で性感染症と診断されたことがありますか？

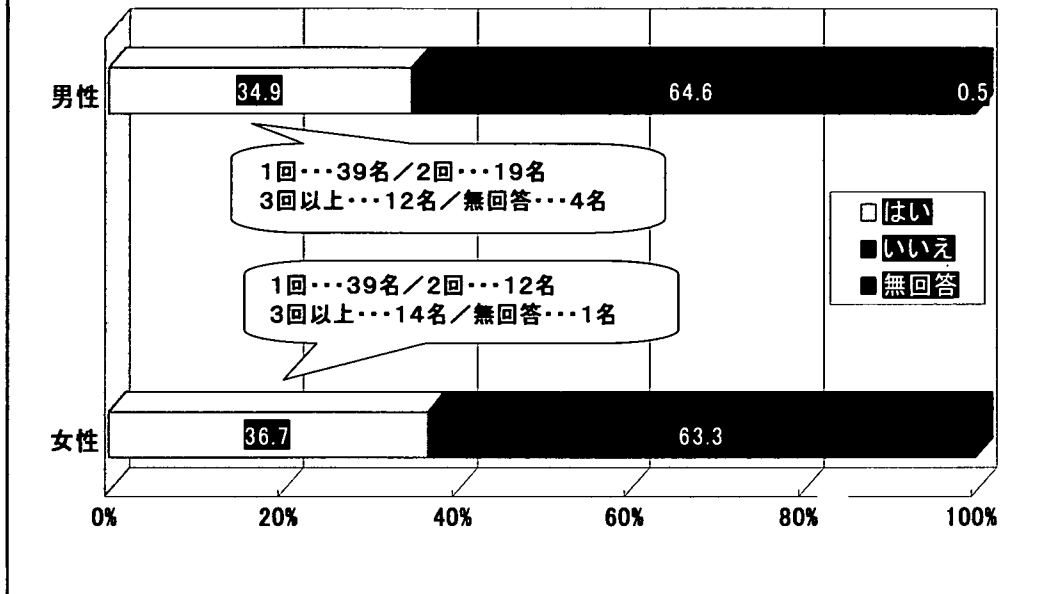


医療機関を受診した理由は何ですか？

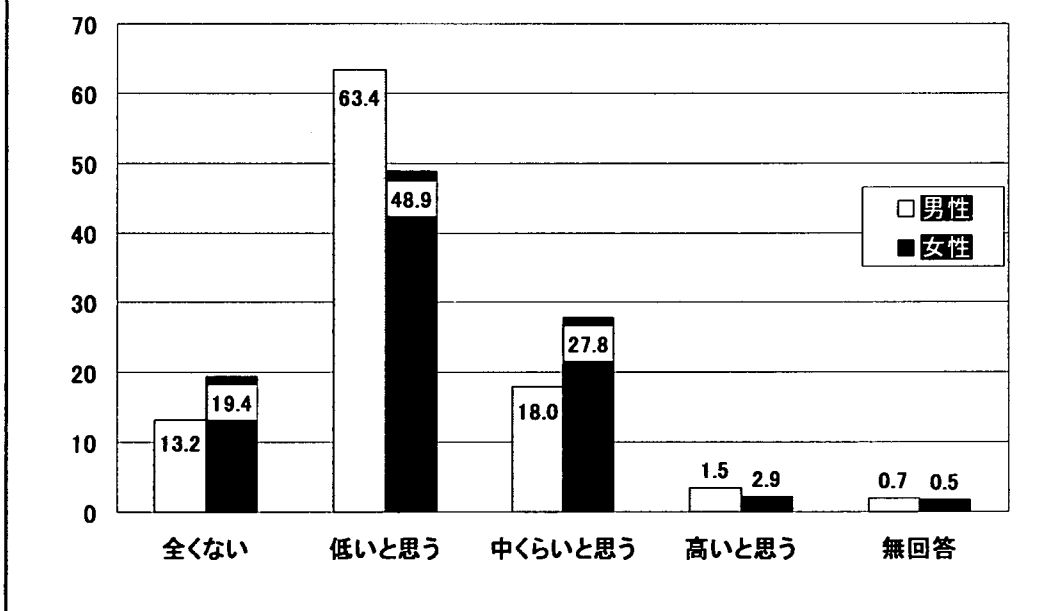




今までにHIV検査を受けた事がありますか？



自分がHIVに感染する可能性はどの程度だと思いますか？



平成19年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
HIV感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究
分担研究報告書

薬物乱用・依存者のHIV感染と行動のモニタリングに関する研究

分担研究者：和田 清（国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部）

班 員：石橋正彦（十全病院）、中元総一郎（下総精神医療センター）、中村亮介（都立松
沢病院）、前岡邦彦（瀬野川病院）、森田展彰（筑波大学）

研究協力者：飯田信夫（回生病院）、狩山博文（久米田病院）、高 直義（久米田病院）、末次幸子（アパルク
リニック）、津久江一郎（瀬野川病院）、藤原永徳（久米田病院）、茨城ダルク、鹿島ダルク、千葉
ダルク、栃木ダルク、日本ダルク、他

研究要旨 ①薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。②研究は「1.精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」（病院群）、「2.医療機関を受診していない薬物依存者調査」（非病院群）の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査ないしは診療録からの転記調査と採血による血清学的検査を実施した。③HIV抗体陽性者は認められなかった。④ただし、本調査研究のこれまでのHIV抗体陽性者の感染経路より、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。⑤病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が24%と高く、77%の者にこれまでに注射による薬物使用の既往（以下、注射の既往）があり、この1年間でも50%の者に注射の既往があった。また、60%の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、19%の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射経験率、注射針の共用経験率は低下を示しており、その背景には「あぶり」の普及があると推測された。⑥病院群における「あぶり」の経験率は2000年以降、定着したようである。「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者がほとんどいないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。⑦非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は29%であり、病院群の24%よりは高かった。⑧注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうかに関しては、IDU経験の有無と知識の周知率との間には有意差は認められなかった。⑨非病院群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのHCV陽性率は病院群よりも低下の度合いが著しく、この1年間での注射経験率も低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。⑩病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗体験とそこでのコンドーム使用の有無を独立変数として、判別分析を行った。その結果、正答率は71～73%とモデルとしては良好とはいえないが、正準判別関数では、固有値が0.380、Wilksのラムダが0.725（ $p < 0.000$ ）であり、構造行列での関数は、注射の回数：0.830、年齢：0.582、入れ墨：0.470、風俗体験とそこでのコンドーム使用状況：0.208であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。⑪薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究グループの構成と研究方法

本研究グループは、下記のように2つのサブグループより成り立っている。

1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）

首都圏①病院

③病院

近畿圏⑧病院

中国圏②病院

九州圏⑥病院

⑦病院

2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査（非病院群調査）

⑩ダルク

⑬ダルク

⑭ダルク

⑮ダルク

⑰ダルク

わが国で乱用されている依存性薬物は、結果的に医療機関を受診する乱用者数の上では、有機溶剤と覚せい剤が圧倒的に多い。この両薬物は、乱用の繰り返しにより、高頻度に精神病を引き起こすため、薬物乱用・依存者を調査するには、精神科医療施設での調査が効果的である。また、覚せい剤の乱用は、静脈注射によることが多いため、HIV感染の危険がきわめて高い。

そこで、当研究グループでは、薬物乱用・依存者が多いと考えられる地域の、かつ、薬物依存・精神病患者を多く診ている病院を調査定点とし、患者の承諾を得た上で、診療録からのデータの転記調査を実施した（図1）。調査定点の6病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約19%（6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして）は捕捉できると

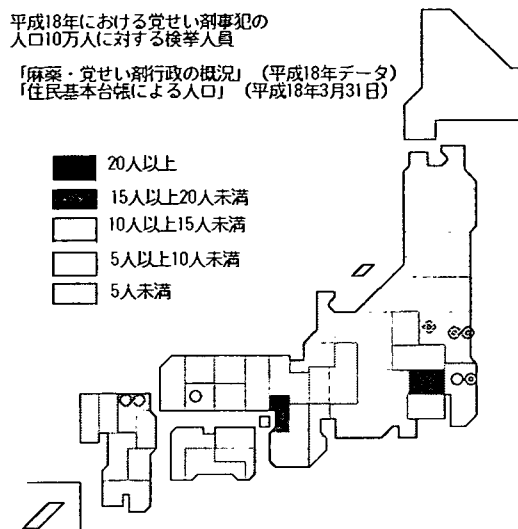


図1 平成18年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

推定している。

また、薬物乱用・依存者の全てが医療施設を受診するわけではないから、薬物依存者回復支援グループの協力を得て、医療施設を受診していない薬物乱用・依存者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査も、本人の同意の下で実施した。

いずれの調査も、調査期間は2007年1月1日～2007年12月31日である。

また、本調査については国立精神・神経センター小平地区の倫理委員会の承認を得た上で実施した。

覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが極めて困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

C. 本年度の目標

「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」はすでに、最低限の調査定点を確保（図1）し、年間、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約19%（6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして）の

薬物依存・精神病患者調査を実施できる体制になっている。また、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」は、調査実施と共に、HIV感染及び肝炎予防啓発プログラムという意味も兼ねており、肝炎患者については、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチ的プログラムとして実施している。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）

実人数363人（延べ444人）を調べた。

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリー毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。

性別では、ICD-10分類に関わらず、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男：女は約7：3であった。

年齢はICD-10分類に対応して特徴的である。「大麻」、「多剤」では20歳代、「鎮静睡眠薬」、「覚せい剤」、「揮発性溶剤」（有機溶剤）では30歳代であり、従来20歳代であった「揮発性溶剤」が30歳代にシフトしていた。「多剤」は20歳代～40歳代に渡っていた。性別では、「鎮静睡眠薬」では女性の方が多という以外は、全ての薬物で男性が多く、その傾向は従来通りであった。

ICD-10分類に関わらず、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より明らかに高いのも従来通りであった。

一連の本調査では、2001年調査で、初めてHIV感染者を認めた（累積で1人/1868人）。そのケースは覚せい剤依存の30歳男性であったが、注射による薬物乱用歴はなく、タイでのCSWとの性接触による感染と考えられるケースであった。しかし、2002年調査では、注射による薬物使用者（IDUs）である性的伴侶から感染したと考えられる31歳の覚せい剤依存者（女性）1名とMSM間での性行為により感染したと考えられる27歳の多剤依存者（男性）1名が特定された。2004年調査では、覚せい剤依存の既往とCSWの

経験のある33歳女性のエイズ患者1名が特定された。

一連の本調査により、IDUs間でのHIV感染が確認されたのは、2002年調査が初めてであったが、これを偶発的な事態と見るよりは、薬物依存者におけるHIV感染の広がりへの反映の可能性をとらえた方が現実的であろう。

幸い、前回の2005年調査以降、今回の2007年調査ではHIV感染者は認められなかった。

以上のように、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

HCV感染については、これまで同様、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率が高く、23.6%（2006年では37.6%）であった。

身体所見では、覚せい剤・揮発性溶剤・多剤関連患者における「入れ墨あり」の率が高く、覚せい剤関連患者、揮発性溶剤患者では「指つめ」ありの者も認められ、これらの群での社会的偏りを示唆していた。

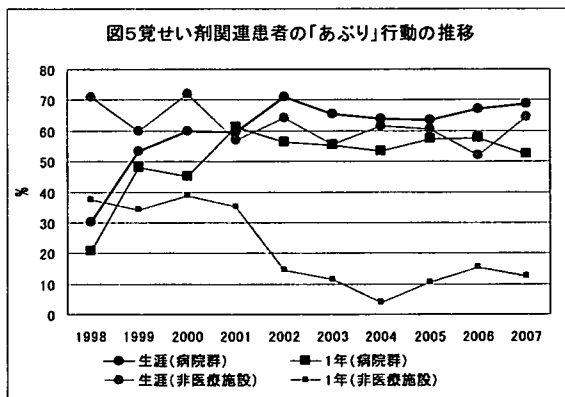
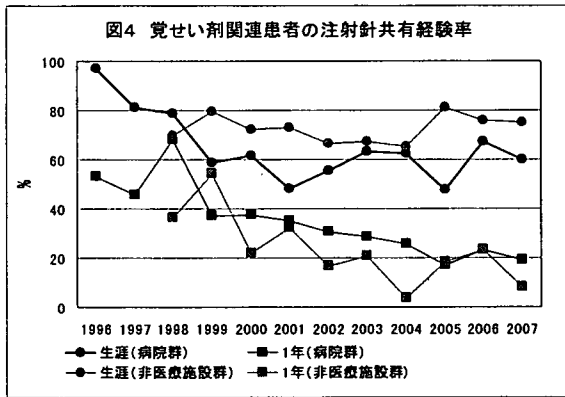
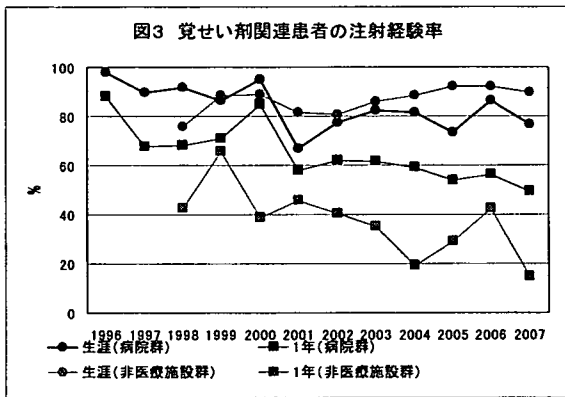
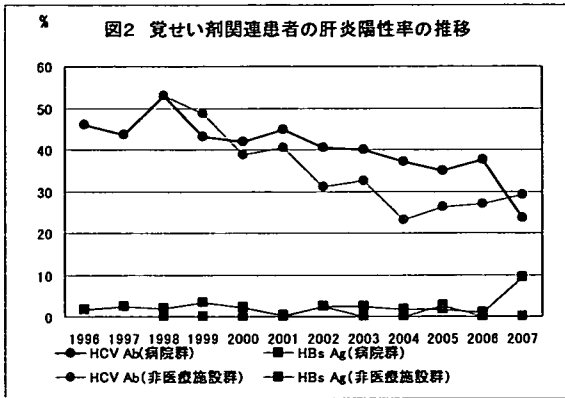
また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時（ICD-10では揮発性溶剤F18）に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であるが、その存在は有機溶剤乱用の既往を推測させるものであり、「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者や多剤患者にも認められ、有機溶剤の乱用が覚せい剤等の乱用へとつながり易いという経験則を裏打ちしている。

覚せい剤関連患者における肝炎抗体（抗原）陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、C型肝炎抗体陽性率は確実に減少傾向にある。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は76.9%（2006年で86.4%）と高く、覚せい剤関連患者の60～63%（2006年で68～68%）の者に、シリンジ/針の生涯共用経験があった。

最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも覚せい剤関連患者の約50%（2006年で約57%）に最近1年間での注射既往があり、約20%



(2006年で約25%)の者にシリンジ/針の共用経験もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示している。注射の生涯経験率は、1996年以降、低下傾向を示し、2002年以降は横ばいであるが、注射の1年経験率は経年的低下傾向にある。その背景には「あぶり」の普及とその定着(図5)が影響していると推定される。

また、図4は注射針の共用経験率の推移を示している。ここでの傾向も注射経験率とほとんど同じであるが、その背景には、同じく「あぶり」の普及とその定着(図5)が影響していると推定してきた。

第2次覚せい剤乱用期(1970年～1994年)には、覚せい剤の乱用と言えば、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期(1995年～現在)では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図5は「あぶり」の経験率を示しているが、2000年以降、「あぶり」が定着した感がある。

また、この1年間で、注射と「あぶり」のどちらが多かったかを調べたが(表2)、2001年調査で、初めて「あぶり」が注射を上回ったがものの、2002年調査～2004年調査では再び注射優位となっていた。2005年では全く同率であったが、2006年調査、及び、今回と「あぶり」優位であった。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮され、看過できない問題である。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、高いとは言えないようであるが(表2)、その際のコンドームの使用は徹底されておらず、啓発が必要である。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉(「行きずり」の性交渉)経験率も、最近1年間での「風俗」での性交渉経験率と同じような解釈ができる。

最近1年間での海外渡航者(表2)は、数の上では少ないが、渡航先での薬物使用率、性接触

率はむしろ高く、注意を要する。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約37歳（2006年も同じ）であり、これまでに注射既往のない者のそれは約30歳（2006年では32歳）で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約40歳（2006年では約37歳）であった。この年齢の順位の相違は、従来と同じである。一旦薬物依存に陥ると、どこかの時点で注射使用になり、その後は注射をやめても、薬物依存ないしは精神症状が残るという経過パターンを象徴していると考えられた。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「指つめ」ありの率も低くなく、注射経験者の社会的属性の偏りを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は55%（2006年では50%）と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

この1年間にも注射の既往がある群では、この1年間での「風俗」での性接触も3群中最も高く、全体的に考えて、HIV感染の危険が最も高い群であると推定できる。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性行動上の危険因子も含めて、複合的に危険性が増していると考えられる。

研究2 医療機関を受診していない薬物依存者調査

初回検査者92人（延べ167人）を調査した。

表5は医療機関を受診していない薬物依存者

のICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。

性別は協力グループの関係で、1名を除く全員が男性である。覚せい剤関連患者の平均年齢は37歳（2006年では36.3歳）であり、病院群と同じであった（従来は病院群より1歳若い）。未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いことも、病院群と同じであった。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は29%（2006年では27%）であり、病院群の23.6%（表1）よりは高いが、そもそも両群ともに高いことには変わりはない。

覚せい剤関連患者についての両群の比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群＝30:46（2006年では38:69）、8:15（2006年では14:8）であり、どちらが多いかと言うことでは、「入れ墨」では従来と同じであったが、「指つめ」では逆転していた。「根性焼き」のある率は非病院群で明らかに高かった（14:33）が、「自傷痕」のある割合は、20:15と逆転していた。

非病院群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。ただし、現在ではこの2群の違いを明確に分けることは難しくなっている。

ただし、図5に示したように、この群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのHCV陽性率は病院群よりも低下の度合いが著しく（図2）、この1年間での注射経験率（図3）も低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうか関する初回検査者の結果である。IDU経験の有無と知識の周知率との間には有意差は認められなかった。

また、表10は「あぶり」を行った理由についての回答である。「好奇心」「針が手に入らな

かったから」で有意差が認められた。IDU経験の有無に関わらず、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者がほとんどいないことに留意する必要がある。

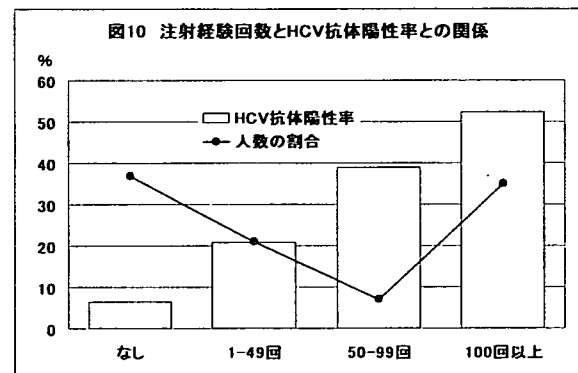
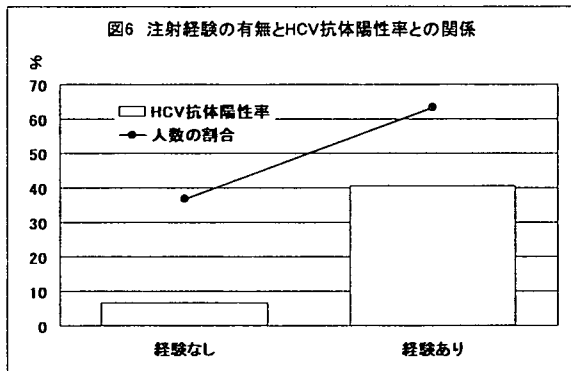
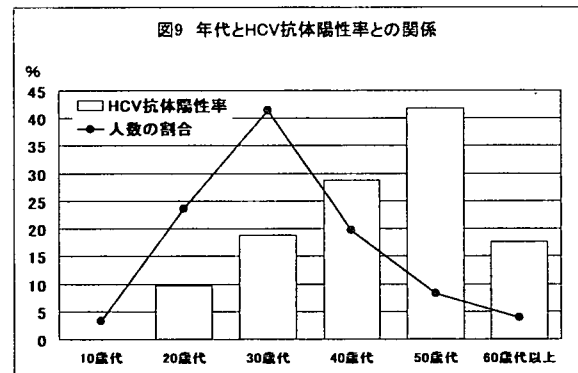
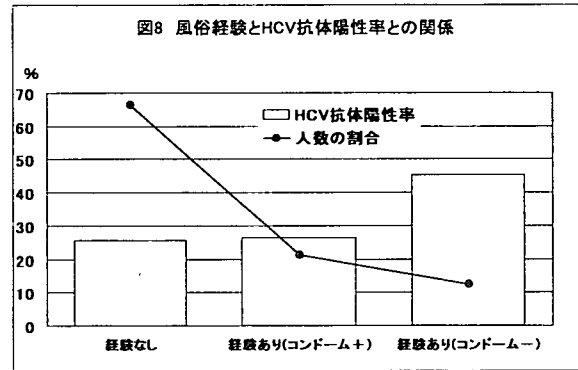
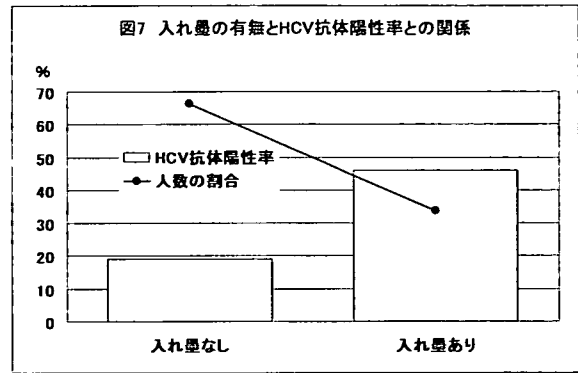
表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合。

	HIVについて知らなかった者	C型肝炎について知らなかった者
IDU非経験者	17.2%(5/29)	24.1%(7/29)
IDU経験者	17.0%(8/47)	12.8%(6/47)

表10 初回検査者における「あぶり」の理由

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心 *	10.3%(3/29)	36.2%(17/47)
注射は怖いから	20.7%(6/29)	14.9%(7/47)
気軽にできるから	17.2%(5/29)	25.5%(12/47)
回数を多くできるから	3.4(1/29)	4.3%(2/47)
依存になりにくいと思ったから	10.3%(3/29)	17.0%(8/47)
針が手に入らなかったから *	3.4(1/29)	25.5(12/47)
HIV感染が気になったから	3.4%(1/29)	0%(0/47)
C型肝炎感染が気になったから	0%(0/29)	8.5%(4/47)
その他	0%(0/29)	8.5%(4/47)

* : p<0.05



E. HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、病院群と非病院群の双方を併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との間には、明らかな関係は認められなかった。ただし、風俗経験者群の中で、コンドームを使用しないことがあった者でHCV抗体陽性率は最も高かった。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗体験とそこでのコンドーム使用の有無を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、正準判別関数では、固有値が0.380、Wilksのラムダが0.725 ($p < 0.000$) であり、正答率は71~73%と、モデルとしては良好とは言えなかった。しかし、構造行列では、注射の回数:0.830、年齢:0.582、入れ墨:0.470、風俗体験とそこでのコンドーム使用状況:0.208であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した(2006年調査でも順番は同じ)。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率の間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという、年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

ちなみに、図10は、これまでの注射による薬

物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があり、確かなことは、これまでに注射による薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈すべきであろう。

F. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1.精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群)、「2.医療機関を受診していない薬物依存者調査」(非病院群)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

③ HIV抗体陽性者は、1993年より開始された一連の本調査において、2001年に1名が初めて特定され、2002年調査では2名特定され、2004年調査では、覚せい剤依存の既往とCSWの経験のある33歳女性のエイズ患者1名が特定された。しかし、2005年調査以降、今回の調査でもHIV抗体陽性者は認められなかった。

④ ただし、本調査研究によるこれまでのHIV抗体陽性者の感染経路より、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が24%と高く、77%の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも50%の者に注射の既往があった。また、60%の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、19%

の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射経験率、注射針の共用経験率は低下を示しており、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。

⑥ 病院群における「あぶり」の経験率は2000年以降、定着したようである。「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者はほとんどいないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑦ 非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は29%であり、病院群の24%よりは高かった。

⑧ 注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうかに関しては、IDU経験の有無と知識の周知率との間に有意差は認められなかった。

⑨ 非病院群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのHCV陽性率は病院群よりも低下の度合いが著しく、この1年間での注射経験率も低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

⑩ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗体験とそこでのコンドーム使用の有無を独立変数として、判別分析を行った。その結果、正答率は71~73%とモデルとしては良好とはいえないが、正準判別関数では、固有値が0.380、Wilksのラムダが0.725 ($p < 0.000$) であり、構造行列での関数は、注

射の回数:0.830、年齢:0.582、入れ墨:0.470、風俗体験とそこでのコンドーム使用状況:0.208であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

⑪ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

G. 発表論文 なし

H. 学会発表

1. 森田展彰：薬物依存症とHIV感染症一予防的な働きかけを中心に一第21回日本エイズ学会学術集会・総会，教育講演2007年11月30日（金）（広島国際会議場（広島市）

H. 知的所有権の取得状況 なし

表 1 【医療機関を受診した薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	主診断 (ICD-10)									全体
	F10	F11	F12	F13	F14	F15	F16	F18	F19	
	アルコール	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	コカイン	覚せい剤	催幻覚剤	揮発性溶剤	多剤	
	19[5.2]	2[0.6]	11[3.0]	28[7.7]	1[0.3]	221[60.9]	1[0.3]	41[11.3]	39[10.7]	363[100]
性別										
男	18(94.7)	2(100)	10(90.9)	10(35.7)		162(73.3)		35(85.4)	25(64.1)	262(72.2)
女	1(5.3)		1(9.1)	18(64.3)	1(100)	59(26.7)	1(100)	6(14.6)	14(35.9)	101(27.8)
年齢										
10歳代			1(9.1)	1(3.6)		8(3.6)		4(9.8)	1(2.6)	15(4.1)
20歳代			7(63.6)	6(21.4)	1(100)	48(21.7)		12(29.3)	13(33.3)	87(24.0)
30歳代	3(15.8)	1(100)	2(18.2)	13(46.4)		93(42.1)	1(100)	21(51.2)	11(28.2)	146(40.2)
40歳代	7(26.8)		1(9.1)	3(10.7)		44(19.9)		4(9.8)	12(30.8)	71(19.6)
50歳代	3(15.8)			5(17.9)		18(8.1)			2(5.1)	28(7.7)
60歳代	6(31.6)					10(4.5)				16(4.4)
平均年齢±SD	52.7 ±12.3	34 ±1.4	27.5 ±9.0	36.9 ±11.7	25	37.1 ±11.2	33	30.5 ±7.8	33.9 ±9.4	36.5 ±11.6
現在の配偶歴(%)										
未婚	50(1/2)		80.0(4/5)	37.5(6/16)		61.6(66/108)	100	77.8(7/9)	65.5(19/29)	60.1(104/173)
既婚		50.0		50.0(8/16)	100	13.9(15/108)			10.3(3/29)	16.2(28/173)
離婚	50(1/2)	50.0	20.0(1/5)	6.3(1/16)		22.2(24/108)		22.2(2/9)	24.1(7/29)	21.4(37/173)
死別				6.3(1/16)		2.8(3/108)				2.3(4/173)
離婚歴あり	50(1/2)	50(1/2)	0(0/5)	12.5(2/16)	100	27.8(30/108)	100	22.2(2/9)	27.6(8/29)	26.0(45/173)
血清検査(%)										
HIV抗体陽性	0(0/19)	0(0/2)	0(0/11)	0(0/28)	0(0/1)	0(0/211)	0(0/1)	0(0/41)	0(0/38)	0(0/352)
HCV抗体陽性	10.5(2/19)	0(0/2)	0(0/10)	7.1(2/28)	0(0/1)	23.6(50/212)	100(1/1)	19.5(8/41)	14.3(5/35)	19.5(68/349)
HBs抗原陽性	21.1(4/19)	0(0/2)	0(0/10)	3.6(1/28)	0(0/1)	9.4(20/212)	0(0/1)	5.1(2/39)	2.8(1/36)	8.0(28/348)
HBs抗体陽性	0(0/2)	0(0/2)	0(0/4)	0(0/16)	0(0/1)	2.6(2/76)	0(0/1)	12.5(1/8)	0(0/23)	2.3(3/133)
HBc抗体陽性	0(0/1)	—	0(0/1)	0(0/15)	0(0/1)	0(0/55)	0(0/1)	0(0/1)	0(0/19)	0(0/94)
TPHA陽性率	0(0/19)	0(0/2)	0(0/10)	7.1(2/28)	0(0/1)	2.4(5/211)	0(0/1)	0(0/40)	2.9(1/34)	2.3(8/346)
性病既往(自己申告)(%)										
毛ジラミ	0(0/2)	0(0/2)	0(0/5)	31.3(5/16)	100(1/1)	11.9(13/109)	0(0/1)	11.1(1/9)	20.0(6/30)	14.9(26/175)
淋病	0(0/2)	0(0/2)	0(0/5)	25.0(4/16)	100(1/1)	14.7(16/109)	100(1/1)	11.1(1/9)	6.7(2/30)	14.3(25/175)
クラミジア	0(0/2)	0(0/2)	20.0(1/5)	18.8(3/16)	100(1/1)	0.9(1/109)	0(0/1)	11.1(1/9)	13.3(4/30)	6.3(11/175)
梅毒	0(0/2)	0(0/2)	0(0/5)	12.5(2/16)	0(0/1)	3.7(4/109)	0(0/1)	0(0/9)	3.3(1/30)	4.0(7/175)
身体所見(%)										
輸血の既往あり	50(1/2)	0(0/1)	0(0/4)	0(0/16)	0(0/1)	1.0(1/101)	0(0/1)	11.1(1/9)	0(0/28)	1.8(3/163)
歯の著明不良あり	50(1/2)	0(0/2)	0(0/5)	6.3(1/16)	100(1/1)	26.6(29/109)	0(0/1)	55.6(5/9)	20.0(6/30)	24.6(43/175)
注射痕あり	0(0/2)	0(0/2)	0(0/5)	0(0/16)	0(0/1)	39.4(43/109)	0(0/1)	0(0/9)	16.7(5/30)	27.4(48/175)
入れ墨あり	50(1/2)	0(0/2)	20.0(1/5)	6.3(1/16)	100(1/1)	30.3(33/109)	100(1/1)	44.4(4/9)	30.0(9/30)	29.1(51/175)
指つめあり	0(0/2)	0(0/2)	0(0/5)	0(0/16)	0(0/1)	8.3(9/109)	0(0/1)	11.1(1/9)	3.3(1/30)	6.3(11/175)
根性焼きあり	0(0/2)	0(0/2)	0(0/5)	6.3(1/16)	0(0/1)	13.8(15/109)	0(0/1)	33.3(3/9)	30.0(9/30)	16.0(28/175)
自傷痕あり	0(0/2)	0(0/2)	20.0(1/5)	25.0(4/16)	0(0/1)	20.2(22/109)	0(0/1)	33.3(3/9)	30.0(9/30)	22.3(39/175)

表2【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10										全体
	F10	F11	F12	F13	F14	F15	F16	F18	F19		
	7&3-0	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	コカイン	覚せい剤	催幻覚剤	揮発性溶剤	多剤		
	19[5.2]	2[0.6]	11[3.0]	28[7.7]	1[0.3]	221[60.9]	1[0.3]	41[11.3]	39[10.7]	365[100]	
これまで(%)											
注射経験あり	50(1/2)	100	0(0/5)	0(0/16)	0.0	76.9(83/108)	0.0	33.3(3/9)	58.6(17/29)	61.3(106/173)	
シツジ 共用経験+	50(1/2)	0.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	62.9(66/105)	0.0	22.2(2/9)	46.4(13/28)	48.8(82/168)	
針の共用経験+	50(1/2)	0.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	60.0(63/105)	0.0	33.3(3/9)	46.4(13/28)	47.6(80/168)	
注射回数											
なし	50(1/2)	0.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	24.0(25/104)	0.0	66.7(6/9)	42.9(12/28)	39.9(67/168)	
1~49回	0(0/2)	50.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	28.8(30/104)	0.0	33.3(3/9)	28.6(8/28)	25.0(42/168)	
50~99回	50(1/2)	50.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	11.5(12/104)	0.0	0(0/9)	7.1(2/28)	9.5(16/168)	
100回以上	0(0/2)	0.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	35.6(37/104)	0.0	0(0/9)	21.4(6/28)	25.6(43/168)	
最近1年間で(%)											
注射経験あり	0(0/2)	50.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	49.5(53/107)	0.0	0(0/9)	34.5(10/29)	37.2(64/172)	
シツジ 共用経験+	0(0/2)	0.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	20.2(21/104)	0.0	0(0/9)	21.4(6/28)	16.1(27/168)	
針の共用経験+	0(0/2)	0.0	0(0/5)	0(0/16)	0.0	19.2(20/104)	0.0	0(0/9)	21.4(6/28)	15.5(26/168)	
注射回数											
なし	100(2/2)	50.0	100(5/5)	100(16/16)	100	52.4(54/103)	100	100(9/9)	65.5(19/29)	64.3(108/168)	
1~49回	0	0.0	0	0	0	42.7(44/103)	0	0(0/9)	27.6(8/29)	31.0(52/168)	
50~99回	0	50.0	0	0	0	4.9(5/103)	0	0(0/9)	3.4(1/29)	4.2(7/168)	
100回以上	0	0.0	0	0	0	0(0/103)	0	0(0/9)	3.4(1/29)	0.6(1/168)	
これまで「あぶり」の経験あり(%)	0(0/2)	50.0	0(0/5)	0(0/16)	0	68.9(73/106)	0	0(0/9)	65.5(19/29)	54.5(93/171)	
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)	0(0/2)	50.0	0(0/5)	0(0/16)	0	52.4(55/105)	0	0(0/9)	48.3(14/29)	41.2(70/170)	
この1年間でどちらが多いか?(%)											
注射	0.0	50.0	0.0	0	0	30.8(32/104)	0	0(0/9)	31.0(9/29)	25.4(43/169)	
「あぶり」	0.0	50.0	0.0	0	0	40.4(42/104)	0	0(0/9)	37.9(11/29)	32.0(54/169)	
同程度	0.0	0.0	0.0	0	0	5.8(6/104)	0	0(0/9)	3.4(1/29)	4.1(7/169)	
どちらもなし	100(2/2)	0.0	100(5/5)	100(16/16)	100	23.1(24/104)	100	0(0/9)	27.6(8/29)	38.5(65/169)	
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)											
なし	100(2/2)	50.0	100(40/4)	56.3(9/16)	0	61.8(63/102)	0	55.6(5/9)	66.7(18/27)	62.2(102/164)	
あり(常にコンドーム+)	0	50.0	0	37.5(6/16)	100	25.5(26/102)	0	44.4(4/9)	11.1(3/27)	25.0(41/164)	
あり(コンドーム-のことあり)	0	—	0	6.3(1/16)	0	12.7(13/102)	100	0(0/9)	22.2(6/27)	12.8(21/164)	
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)											
なし	50(1/2)	50.0	100(5/5)	81.3(13/16)	0	72.5(74/102)	0	88.9(8/9)	75.9(22/29)	74.3(124/167)	
あり(常にコンドーム+)	0	50.0	0	12.5(2/16)	100	8.8(69/102)	0	11.1(1/9)	13.8(4/29)	10.8(18/167)	
あり(コンドーム-のことあり)	50(1/2)	0	0	6.3(1/16)	0	18.6(19/102)	100	0(0/9)	10.3(3/29)	15.0(25/167)	
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)											
なし	100(2/2)	100	100(5/5)	81.3(13/16)	100	87.3(89/102)	0	88.9(8/9)	89.7(26/29)	87.4(146/167)	
あり(常にコンドーム+)	0	0	0	18.8(3/16)	0	10.8(11/102)	100	11.1(1/9)	3.4(1/29)	10.2(17/167)	
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	0	0	0	2.0(2/102)	0	0	6.9(2/29)	2.4(4/167)	
性接触ありの場合の相手											
「風俗」で	—	—	—	100(3/3)	—	92.3(12/13)	100(1/1)	100(1/1)	33.3(1/3)	85.7(18/21)	
「風俗」以外で	—	—	—	0	—	7.7(1/13)	0	0	33.3(1/3)	9.5(2/21)	
両方で	—	—	—	0	—	0(0/13)	0	0	33.3(1/3)	4.8(1/21)	
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)											
0(0/2)	50.0	0(0/5)	0(0/16)	0	3.8(4/104)	0	0(0/9)	10.3(3/29)	4.7(8/169)		
上記のうち 海外で薬物使用のあった者	—	100	—	—	—	25.0(1/4)	—	—	33.3(1/3)	37.5(3/8)	
海外で性交渉のあった者	—	0	—	—	—	50.0(2/4)	—	—	0(0/3)	25.0(2/8)	

表3【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまでに 注射経験なし	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
	67[39.0]	41[23.8]	64[37.2]	124[70.9]	51[29.1]
性別					
男	40(59.7)	29(70.7)	42(65.6)	80(64.5)	33(64.7)
女	27(40.3)	12(29.3)	22(34.4)	44(35.5)	18(35.3)
年齢					
10歳代	6[66.7]	0[0]	3[33.3]	7[77.8]	2[22.2]
20歳代	13[62.0]	8[16.0]	11[22.0]	40[78.4]	11[21.6]
30歳代	23[33.8]	17[25.0]	28[41.2]	51[72.9]	19[27.1]
40歳代	5[17.2]	9[31.0]	15[51.7]	20[59.0]	9[31.0]
50歳代	2[15.4]	6[46.2]	5[38.5]	4[30.8]	9[69.2]
60歳以上	0[0]	1[33.3]	2[66.47]	2[66.7]	1[33.3]
平均年齢±SD	29.8±8.4	39.6±12.2	36.7±9.6	33.4±10.0	37.8±11.2
現在の配偶歴					
未婚	68.7	63.4	50.0	63.9(78/122)	51.0
既婚	22.4	7.3	15.6	18.9(23/122)	9.8
離婚	7.5	22	34.4	15.6(19/122)	35.3
死別	1.5	7.3	0	1.6(2/122)	3.9
離婚歴あり	10.4	34.1	35.9	19.7(24/122)	41.2
血清検査(%)					
HIV抗体陽性率	0(0/64)	0(0/40)	0(0/61)	0(0/117)	0(0/48)
HCV抗体陽性率	7.8(5/64)	44.7(17/38)	50.0(30/60)	22.6(26/115)	55.3(26/47)
HBs抗原陽性率	0(0/63)	0(0/38)	0(0/60)	0(0/115)	0(0/46)
HBs抗体陽性率	0(0/60)	4.0(1/25)	4.2(2/48)	2.1(2/94)	2.6(1/39)
HBc抗体陽性率	0(0/45)	0(0/13)	0(0/36)	0(0/ 65)	0(0/29)
TPHA陽性率	4.7(3/64)	8.6(3/35)	1.7(1/60)	3.5(4/114)	6.7(3/45)
性病既往(自己申告)(%)					
毛ジラミ	14.9	19.5	12.5	13.7	17.6
淋病	13.4	14.6	14.1	9.7	25.5
クラミジア	9.0	7.3	3.1	4.0	11.8
梅毒	4.5	7.3	1.6	3.2	5.9
身体所見(%)					
輸血の既往あり	1.5(1/65)	5.3(2/38)	0(0/59)	0.9(1/115)	4.1(2/49)
歯の著明不良あり	14.9	41.5	25.0	21.8	31.4
注射痕あり	0	31.7	54.7	27.4	27.5
入れ墨あり	22.4	36.6	31.3		
指つめあり	0	14.6	6.3	2.4	15.7
根性焼きあり	13.4	17.1	18.8	13.7	21.6
自傷痕あり	29.9	14.6	20.3	19.4	29.4

表4【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまでに			入れ墨	
	注射経験なし 67[39.0]	これまでに注射経験あり		なし 124[70.9]	あり 51[29.1]
		1年間にはなし 41[23.8]	1年間にもあり 64[37.2]		
これまでに (%)					
注射経験あり	0	100	100	57.4(70/122)	70.6
シリンジ 共用経験あり	0	87.5(35/40)	76.7(46/60)	43.6(51/117)	60.8
針の共用経験あり	0	85.0(34/40)	75.0(45/60)	41.9(49/117)	60.8
注射経験の注射回数					
なし	100	0	0	44.1(52/118)	30.0(15/50)
1~49回	0	42.5(17/40)	40.0(24/60)	24.6(29/118)	26.0(13/50)
50~99回	0	20.0(8/40)	13.3(8/60)	11.9(14/118)	4.0(2/50)
100回以上	0	37.5(15/40)	46.7(28/60)	19.5(23/118)	40.0(20/50)
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	100	36.1(44/122)	40.0(20/50)
シリンジ 共用経験	0	0	45.5(27/60)	15.3(18/118)	18.0(9/50)
針の共用経験	0	0	43.3(26/60)	14.4(17/118)	18.0(9/50)
注射経験の注射回数					
なし	100	100	0	66.1(78/118)	60.0(30/50)
1~49回	0	0	86.7(52/60)	29.7(35/118)	34.0(17/50)
50~99回	0	0	11.7(7/60)	3.4(4/118)	6.0(3/50)
100回以上	0	0	1.7(1/60)	0.8(1/118)	0(0/50)
これまでに「あぶり」の経験あり	37.3	61.0	67.7(472/62)	50.0(60/120)	64.7
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)	35.8	29.3	54.8(34/62)	40.8(49/120)	42(21/50)
この1年間ではどちらが多いか?					
注射	0	0	60.7(37/61)	21.8(26/119)	34.0(17/50)
「あぶり」	38.8	29.3	26.2(16/61)	30.3(36/119)	36.0(18/50)
同程度	0	0	11.5(7/61)	5.9(7/119)	0(0/50)
どちらもなし	61.2	70.7	1.6(1/61)	42.0(50/119)	30.0(15/50)
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	62.5(40/64)	70.0(28/40)	56.7(34/60)	67.2(78/116)	50.0(24/48)
あり(常にコンドーム+)	29.7(19/64)	15.0(6/40)	26.7(16/60)	23.3(27/116)	29.2(14/48)
あり(コンドーム-のことあり)	7.8(5/64)	15.0(6/40)	16.7(10/60)	9.5(11/116)	20.8(10/48)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	81.8(54/66)	85.0(34/40)	59.0(36/61)	80.5(95/118)	59.2(29/49)
あり(常にコンドーム+)	7.6(5/66)	5.0(2/40)	18.0(11/61)	9.3(11/118)	14.3(7/49)
あり(コンドーム-のことあり)	10.6(7/66)	10.0(4/40)	23.0(14/61)	10.2(12/118)	26.5(13/49)
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	90.9(60/66)	92.5(37/40)	80.3(49/61)	91.5(108/118)	77.6(38/49)
あり(常にコンドーム+)	9.1(6/66)	2.5(1/40)	16.4(10/61)	7.6(9/118)	16.3(8/49)
あり(コンドーム-のことあり)	0(0/66)	5.0(2/40)	3.3(2/61)	0.8(1/118)	6.1(3/49)
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	100(6/6)	33.3(1/3)	91.7(11/12)	90.0(9/10)	81.8(9/11)
「風俗」以外で	0(0/6)	66.7(2/3)	0(0/12)	0(0/10)	18.2(2/11)
不明	0(0/6)	0(0/3)	8.3(1/12)	10.0(1/10)	0(0/11)
外渡航歴のある者 (最近1年間)	4.5(3/66)	7.3	3.3(2/61)	5.0(6/119)	4.0(2/50)
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	33.3(1/3)	66.7(2/3)	0(0/2)	50.0(3/6)	0(0/2)
渡航先で性交渉のあった者	0(0/3)	33.3(1/3)	50.0(1/2)	16.7(1/6)	50.0(1/2)